

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	全国学力・学習状況調査（国語科「書くこと」のB問題）を活用した言語活動の充実に関わる指導法の研究
------	--

研究代表者

氏名 梶井 芳明	所属 教育心理学講座	職名 講師
-------------	---------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

**【研究成果の概要】**（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）

新学習指導要領（文部科学省，2008）の実施に伴い，全ての教科・領域において，言語活動の充実が重視されることとなった。今日求められる言語活動とは，思考し判断したことを表現に結びつける活動，いわゆる思考と表現を一体化させた活動（無藤，2010）である。

表現の中でも「書くこと」の指導改善について大熊（2008）は，教師が，全国学力・学習状況調査の国語B問題（以下，国語B問題）の結果を分析し，そこで明らかとなった課題を指導に役立てることの重要性を指摘している。しかし，多くの教師は，全国調査を解いた経験も，課題を指導に役立てた経験もないのが実状である（寺井，2010）。

国語科教育の領域において，各種学力調査をもとに，教師の調査活用力の視点から，指導の観点及び項目を明らかにした研究は，これまでのところ見当たらない。

そこで本研究は，小学校教師を対象に，国語B問題の分析に基づいて学習指導案（以下，指導案）を作成する課題を実施し，得られた指導案の要素分析を行うことにより，以下の2つを明らかにすることを目的とする。

1つは，国語B問題を活用した授業づくりを行う際に，重視される傾向の強い指導項目を抽出及び精選すること，2つに，国語B問題を活用した授業づくりの様相を明らかにすること，である。

本研究の結果からは，1つに，「国語B問題に基づく指導で重視される傾向の強い言語活動の充実」に特有な指導の観点・項目として，「ねらい（目標）の設定」「問いや条件の確認」「問いや条件に即した学習」「問いや条件に即した学習の振り返り」「図表中の必要な情報の選択」「図表中の必要な情報と本文の関連づけ」「板書の活用」「話の聞き方」「学習形態（個→班・学級全体→個）」「学習活動の工夫」「能力差への対応」「身近なものへの置き換え」「思考と表現の一体化」に関する13観点，25項目が選出された。2つに，国語B問題に基づく授業づくりを通して，思考と表現を一体化させた学習活動，正確な読み取りに基づく表現力，学習目標と成果の明確化，のそれぞれについて，具体的な指導の観点・項目を意識しやすくなること，すなわち言語活動の充実に関わる学習指導を具体化しやすくなることが示唆された。

このことから，言語活動の充実に関わる学習指導を具体化するのには，国語B問題の活用が有用な手立てとなり得ることが推察される。

なお，講習後に行った振り返りの内容からは，「一般的な指導案に見られる学習指導の準備段階」「言語活動に関する学習活動段階」「言語活動に関する学習内容段階」と階層が上がるにつれて，個に応じた指導に重点がおかれ，教師主導型の一斉指導は減少する傾向が示唆された。また，振り返りの内容を，肯定または否定の観点から分類し，班の間でそれらの記述量に違いが見られるのかを検討した結果，上層に位置付く学習内容を重視した班は，他の班に比べ肯定的な記述が有意に多いことが示された。

このことから，講義に際しては，受講者の指導方法や内容に関わる熟達状況を留意することに加え，課題に対する理解や興味・関心を考慮して班構成を行い，指導に当たる必要性も示唆された。

今後の課題としては，本研究で得られた言語活動の充実に関する指導観点・項目の妥当性について，言語活動の充実に関わる理解が十分でない教師が作成した指導案に見られる観点・項目との比較検討や，教科教育における理論及び実践との整合性の検討をする必要がある。

## 研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

梶井芳明・大倉加奈子 2012 全国学力・学習状況調査(国語B問題)の結果をどう役立てるか?(2): 小学校教師が作成した言語活動の充実に関わる学習指導案の分析に基づく考察

日本教育心理学会第54回総会発表論文集, 44.

梶井芳明 投稿中 教師は全国学力・学習状況調査(国語B問題)をどのように指導に役立てるか?: 学習指導案に記された言語活動の充実に関わる指導の観点・項目に着目して